INTERVIEW

へき地・離島画像支援センター センター長
練馬光が丘病院 副病院長，同放射線科 部長
牧田幸三 先生

“画像”の専門家として

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

血管造影に興味をもって

山田隆司（聞き手）　今日は練馬光が丘病院に牧田幸三先生をお訪ねしました．牧田先生には，協会のへき地・離島画像支援センターの遠隔画像診断で，開設時より大変力になっていただいています．まずは先生のご経歴から紹介していただけますか．

牧田幸三　出身は兵庫県の明石です．中学，高校は灘中・灘高で，そういう受験校にいたせいで東京大学の医学部に進みました．小学生の時の「将来なりたいもの」という作文では，「絶対なりたくないのは医者」と書いたのですが（笑）．

大学では東大の駒場のジャズのクラブに入っていてトランペットをやっていた関係や予備校のアルバイトばかりで，あまり本郷の授業には出ていなかったのですが，医学部の臨床実習は全出席しました．臨床実習はとても面白かったですね．その当時の指導医の先生が心音図学などを立ち上げた坂本二哉先生で，またちょうどカテーテル治療が始まったばかりの頃で面白そうだったので，循環器科に進もうかと思って，５年生の夏休みに実習で神戸の中央市民病院へ行きました．

山田　ポートアイランドに移転して間もないころですね．

牧田　東洋一の1,000床の病院と言われていました．コロナリーのPTCAなどが始まったばかりの頃で，カテーテルも術前検査的なものをたくさんやっていましたね．同じころ，放射線科に進み

たいと言っていた同級生が，夏休みの実習は東京女子医科大学に行くというので，私も引っ張られて女子医大の放射線科にも行きました．当時女子医大は専門分化が進んでいて放射線科は黄金期でした．私は関われば面白いと思ってしまう方なので，放射線科もいいかなと思ってしまいました．ちょっと迷っていましたが，卒業後は神戸市立中央市民病院の循環器科に行こうと考えてレジデントの試験を受けたら落ちてしまったのですね(笑)．それで女子医大の放射線科の先生に相談したところ,「自分の大学に放射線科があるのだから自分の大学に入ったほうがいいよ」と言われ，それもそうかなと．

そこで東大の放射線科に相談に行きました．その時お話ししたのが血管造影を専門にしていた八代直文教授です．実は私はもう一つ学生実習で興味を持ったものがあって，それは第二外科を回った時にみた血管造影だったのですね．第二外科の術前カンファでステレオ撮影した血管造影画像を出して説明する先生がいらっしゃって，これは面白いと思ったのです．その先生は東大第二外科の万代恭嗣先生で，のちに社会保険中央総合病院でも大変お世話になりました．それを八代先生に話したら,「血管造影をやりたいのなら放射線科に来ればいい．毎日血管造影だけやっていればいい」ということを言われ，放射線科へ行くことにしました．

放射線科に入った時は肝細胞癌に対する動脈塞栓術(TAE)が始まったころなので，TAEと脳の血管造影やCTを中心にやっていました．そんな毎日だったのですが，当時リンパ管造影検査をできる人が少なく，八代先生に言われて，三井記念病院の放射線科の井上善弘先生のところに毎週通って，リンパ管造影と乳腺のマンモグラフィーや単純X線を教えていただきました．

卒後３年間東大にいた後は，防衛医科大学校の放射線科医局に移動しました．防衛医大もまだ開設してそれほど経っていなかったので，脳外科の血管造影や緊急対応もしながら，図書館もすぐ教室の目の前にあったので，臨床の合間には論文もたくさん書くことができました．

非常に充実した毎日だったのですが，６年間経った時に教授が変わって医局のメンバーがほぼ全員変わってしまったのですね．そんな頃に東大の放射線科の佐々木康人教授が「東大の医局に戻らないか」と電話をくださったのです．東大の医局派遣で新大久保にある社会保険中央総合病院(現 東京山手メディカルセンター)へ行ってほしいと．私はその病院のことは知らなかったのですが，その頃もトランペットをやっていたので，新大久保は楽器屋のメッカなので行くことにしました(笑)．それで，そこに11年間いました．

放射線科医がするのは診断へのガイド

山田　血管造影は病院によって，放射線科の先生がアクティブにやっているところと，それぞれの専門診療科が担当しているところがあるのですか？

牧田　大学によっては各科でCTの枠を持ってやっているところもあるようです．

山田　放射線科というのは横断的な，ジェネラルな科だから専門科との関係が難しそうですね．

牧田　若い人の中には，今は画像がこれだけ出ているので，画像を専門にしたいと思う人も出てき